旧東海道戸塚宿

旧東海道戸塚宿の歴史を歩く散策マップ

■清源院

浄土宗のお寺で、徳川家康の側女お万の方（清源院殿）ゆかりの寺です。本尊は徳川家康から拝領したといわれる徳冏阿弥如来で、境内には松尾芭蕉の句碑、心中句碑、お万の方の遺骸火葬跡の碑があります。また本堂脇の朝日堂は棟札銘慶応三十三回忌二十二番礼所で千手観音が祀られています。

■善了寺

天福元年（1233）江戸麻布善福寺の僧了全が浄土真宗のお寺として開山したそうです。本堂の前には親鸞上人像が建っています。本尊は法然上人作と伝えられる阿弥陀如来です。

江戸期には矢部の問屋場が置かれ、弘化4年（1847）には「東海道五拾三次之内　戸塚」に描かれている大橋の袂に延宝年間（1673～1681年）の「かまくら道」道標が移されています。

■江戸方見付跡

見付とは、宿場の出入り口のことです。ここは戸塚宿の江戸側の出入り口です。旧東海道の宿場に設けられた見付は、宿場を見張りやすいような施設となっていることが多いようです。

参勤交代の大名らを、宿役人がここで出迎えました。

■鎌倉ハムの発祥の地

明治10年頃に英国人のカーチスが柏尾村に外国人専用のホテルを建て、宿泊客に供するハムを作ったのが始まりと言われています。

明治20年頃に地元の藤森周平等がカーチスからハムの製造法を学び、ハムの製造を始めました。煉瓦造りの建物は大正7（1918）年に建造され、2階はハムの仕込み室でした。

■護良親王の首洗い井戸

この地に伝わる言い伝えでは、鎌倉で殺された親王の御首を側女が夜中に盗み取ってこれを奉じ、当地の豪族藤原氏に救いを求めて難を逃れ、この井戸で御首を洗い清めたと言われています。

■大山前不動

江戸時代の大山詣での、大山道入口です。御堂には正徳3（1713）年建立の不動明王像が祀られています。

お堂の前には「従是大山道」と刻まれた道標や、庚申塔などがあります。

■品濃坂

品濃坂は、朝早く江戸を発ち、日暮れまでに戸塚宿へと向かう旅人には宿場町までもう一歩の所です。一方、江戸方面へ向かう人にとっては最後の急な登り坂で、この難所を越えれば清水の立場まであと一息でに、皆も晴天下で、江戸へ急いを駄せていたかもしれません。写真は明治初期の品濃坂です。

■品濃一里塚

江戸から数えて九番目の一里塚です。神奈川県内では、現在完全な形で残る唯一の一里塚で、県の指定史跡となっています。旧東海道をはさんで道の両側に二つの塚があり、品濃側（西側）には首大きな樫が植えられていたそうです。現在は品濃側（西側）、平戸側（東側）共に、塚とその周辺が公園として整備されています。

■境木地蔵尊

江戸時代の初めに、鎌倉の浜に打ち上げられた投地蔵さまを漁師が江戸に運んでいる途中、このあたりで牛車が動かなくなり、置いていかれました。夢枕に立った地蔵様の託宣を聞いた村人がお堂を建ててお祀りしたのでこのあたりの町は栄えたといいます。

■大橋

歌川広重の「東海道五拾三次之内　戸塚」に描かれている戸塚宿を代表する場所の一つです。当時は長さ10 間（18.2m）、幅2 間半（4.6m）の板橋でした。

現在の橋は昭和 61（1986）年に架け替えられたもので、両側に大名行列が持つ毛槍（けやり）を模した街灯が建っています。

■東寮八幡

永久2（1114）年に創建され、明和2（1765）年に現在地へ遷座した神社で、吉田町の鎮守です。源義家が奥州へ赴く途中、拝殿前にある権の大木に馬を繋いだという言い伝えがあります。参道は段葛を模したといわれ、大江匡房の歌碑や庚申塔などがあります。

■歌秀寺

日蓮宗のお寺で本尊は釈迦如来です。境内には戸塚の浮世絵歌川広重の「東海道五拾三次之内　戸塚」に描かれている大橋の脇の延宝年間（1673～1681年）の「かまくら道」道標が移されています。

■宝蔵院

真言宗のお寺で天文16（1547）年に阿闍梨朝舜法印が東峰山光圓寺として中興し、本堂を宝蔵院と称しその後は現在地へ移転しました。本尊は不動明王で境内には地蔵堂、日本舞踊芸道精進の碑などの石造物があります。

■益田家のモチノキ

益田家の敷地には、県の天然記念物に指定された樹齢 300 年を超えると言われる樹高 19mの株と 18mの株の2本のモチノキがあり、東海道を行き交う人々を暮らちも見守り続けています。

■王子神社

祭神は大塔宮護良親王です。親王の首級が本殿下に葬られたと伝えられています。

護良親王は後醍醐天皇の皇子で仏門に入り天台座主となりましたが還俗し、父後醍醐天皇の鎌倉幕府打倒に尽くしましたが、鎌倉に幽閉され足利直義の命令により弑されました。

■鎌倉ハムの発祥の地

■歴史の小径」入口の目印

■海道橋のクスノキ

■焼餅坂

焼餅坂は当時の品濃村と平戸村の境にあり、一町半（約 160m）の坂道でした。

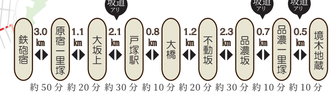
坂の傍の茶店で、焼餅を商っていたので焼餅坂と名付けられたといいます。別名灯籠坂（ぼたもち坂）とも呼ばれています。戸塚を描いた浮世絵には山坂や焼餅の絵がしばしば登場します。

■萩原代官屋敷・道場跡

現在も武家門の残る萩原家は代々旗本杉浦氏の代官を務める家でした。

幕末から明治初期へかけての萩原家当主萩原行篤は直真顕流の免許皆伝の剣士でこの地で道場を開きました。安政5（1858）年には道場へ新撰組の近藤勇も訪れ剣客名簿にその名を残しています。

旧東海道戸塚宿の主要な場所と所要時間等



旧東海道戸塚宿

戸塚宿の成立は、慶長9（1604）年で、隣宿である藤沢、保土ケ谷の宿が成立した慶長6（1601）年に遅れること3年でした。

日本橋から数えて5番目の宿場町で、基点の日本橋からは10里半（約42km）の距離にあり、朝江戸を発った当時の旅人の一番目の宿泊地として最適であり、さらに鎌倉への遊山の道、大山参詣の道の分岐の宿として大変な賑わいを見せていました。

東海道宿村大概帳【天保14（1843）年版】によると、宿内の人口は 2,900 人余、家数は 613 軒、本陣は2、脇本陣は3、旅籠は 75 軒と東海道五十三次の宿場の中では 10 番目に宿泊施設の多い宿場でした。

戸塚区内では旧東海道は南北方向にまたがっており、全長約 11.7kmあります。その中で戸塚宿は、2つの見付跡に挟まれた約 2.3km の範囲とされており、今も戸塚区の中心地として賑わっています。

東海道五拾三次之内　戸塚／初代広重　天保4~5年（1833～1834 年）頃

旧東海道ルート

その他の主な散策ルート

歴史資源の説明
【戸塚宿内（江戸方見付跡~上方見付跡）】

歴史資源の説明

利用可能なトイレ
※ただし、曜日によっては施錠されたり、施設所有者の許可を得る必要のあるトイレもあります。

交番／警察署

バス停

公園

樹林地等

農地

川・水

寺社

学校等

主要な公共施設

道案内板
※旧東海道ルートの分岐点や迷いやすい場所に立っていますので現地でルートを御確認下さい。

歴史案内板

歴史案内角柱

N

SCALE　1/10,000

0　100　200　500m